

# 総務委員会所管事務調査報告書

## 【はじめに】

現在、全国的に社会現象となっている救急病院へのコンビニ受診や総合医療を求めるあまり、平成22年の救急車の出動件数は過去最多となっており、亀山市においても近年は、年間出動件数が増加している。

また、火災件数については減少傾向にあるものの市民からは、救急及び火災における出動について、通報から現場へ到着する時間及び救急については現場到着後、搬送先を決定するまでの所要時間等について、迅速な対応が求められているところである。

そこで、総務委員会では、「消防・救急体制」についてをテーマに設定し、消防関係に対する市民ニーズと、様々な課題の解決に向けて調査・研究を行い、検討した結果をここに報告する。

## 【現状把握】

これまで、消防本部から「消防・救急」に関する体制や配置状況、火災・救急における出動件数の推移、救急出動による市内各地区に現場到着するまでの所要時間、市民及び自治会からの要望内容と対応、近隣市との応援協定、県において計画中の広域消防への進捗状況等について聴き取り、現状把握に努めてきた。

## 【行政視察】

総務委員会では、調査・研究テーマに沿った先進地視察として、平成23年7月12日から14日にかけて行政視察を実施した。

まず、救急車の適正な利用を推進するため「地域医療を守る条例」制定の経緯及び「市民協働による啓発活動」等の取り組みについて、7月13日に宮崎県延岡市を視察した。

その概要は、救急車の不要な利用を抑制し、市民が地域医療を守る意識を高めるために約15万人の署名活動を実施したり、地域医療シンポジウム及び寸劇などの啓発活動を行った。また、行政としては、時間外受診を抑制する啓発パンフレットや地域医療特集を組んだ広報の発行、夜間救急センターの充実などに取り組むとともに「地域医療を守る条例」を制定し、市と市民が協働して軽症患者が安易に救急要請しないように呼びかけたり、「掛かり付け医」を持つように推進する活発な啓発活動を行うことで、救急搬送患者が40%も減少し、結果として「消防・救急体制」の充実につながったという実例を聴取した。

次に、「消防広域化」の経緯及び現状、消防力向上及び最適化に向けた取り組み等について、7月14日に広島県東広島市へ視察した。

その概要は、市町村合併をしなかった2市1町で消防体制について、広域化を実現するための消防行政研究会を立ち上げ協議し、その結果、広域化が実現したことにより、一つの体制となり、消防本部が統一されたことによる経費の削減や人員の確保、また、緊急出動において迅速な対応などが図られ、消防力の向上と市民サービスの向上につながったという事例を聴取した。

また、消防力向上の取り組みとしては、現在、亀山市が実施している「常備消防力適正配置調査」が既に実施済みであり、その調査結果により、さらに経費削減に向けた署所及び人員の配置などの検討に取り組んでいくとのことであった。

### 【市民団体との意見交換会】

平成23年7月26日に自治会連合会、北東部まちづくり推進協議会、安心を備える女性の会CEFの各代表者11名と、現状の「消防・救急体制」に対しての市民ニーズや要望も含めた意見交換会を実施した。

〔出された主な意見〕

- ・人口が密集している市北東部地域に消防分署の設置をお願いしたい。
- ・市北東部へ救急車の到着時間が掛かっており、消防分署があればバランスの取れた消防体制となることから建設を願いたい。
- ・北東部まちづくり推進協議会から4年前に提言書を提出しているが、回答が遅く早急に対応していただきたい。
- ・緊急車両が安全で迅速に移動するため、亀田・川合線の整備及び延伸、和田交差点と踏切の改良など、道路整備をお願いしたい。
- ・救急車が搬送先を決めるのに時間が掛かっており、受け入れ病院体制の構築や市民に対する情報発信等の啓発活動をしていただきたい。
- ・安易に救急車を呼ばない運動をする必要がある。
- ・その他、医療センターへの搬送件数、消火栓ボックスの取り扱い指導、住宅用火災警報器の設置状況、空家調査及び危険な空家の対応など。

〔考察〕

亀山市内で特に人口が密集している北東部地域に「消防署所」の設置を願う意見が大半を占めており、現在の消防署からでは、当該地域へ到着するまで時間を要していることから、地域市民は大きな不安を抱えていることを改めて認識したところであり、当委員会としてもこのことは、重要な課題と捉え、市民ニーズに対応するための提案が必要と考える。

## 【検討結果のまとめ】

総務委員会として、調査・研究テーマに掲げた「消防・救急体制」について、延べ12回にわたり協議してまいり、検討した結果の課題・問題点は、次のとおりである。

- (1) 亀山市の救急出動状況の実績から、平成22年は前年と比べ17.7%増加しており、特に人口が密集している井田川・川崎地区への出動件数は、全体の25%を占めている。また、現場までの到着時間については、市平均11.4分である中、井田川地区へは9.2分で、川崎地区へは13.5分も所要している。また、野登地区への到着には14.1分と市北東部地域への現場到着に時間を要している。
- (2) 亀山市の消防力の向上を目指すことが重要であり、消防力整備指針の基準に対して、亀山市の消防力は、指揮車の未整備と現有台数に対する人員が大きく不足している。
- (3) 救急による搬送患者の傷病別の実績から、軽症者の搬送が平成21年は全体の50%、平成22年は全体の54%を占めており、救急車の適正な利用の認識が薄く、救急体制及び消防力全般に影響を及ぼしている。

よって、総務委員会として亀山市の「消防・救急体制」について、市民の安心・安全を確保するため、下記のとおり市長に対し提言を求める。

## 記

1. 人口が密集している市北東部地域への救急出動が多く、また、現場までの到着時間を要しているため、早急に「消防署所」を設置すること。
2. 救急体制の充実を確保することから、市と市民の役割を明確に示し、市民と協働して救急車の適正な利用を推進するための施策を講じること。